

# 債券投資家の冬は、終わるのか？

こ

こ数年間、冴えなかった債券のパフォーマンス。日本から海外の債券に投資していた場合は、その期間に大きく進んだ円安の影響もあり、それほど損をしているというイメージはないのかもしれない。しかし、米ドルベースで見ると、その低調ぶりは明らか。下に示したのは、米国の投資適格債の指数に連動する米ドル建てETFの価格の推移だが、この3年間のパフォーマンスは芳しいものではなく、「コツコツとインカムを積み上げる」債券のイメージとは程遠い。理由はインフレとそれに対応する利上げ。債券の市場価格は基本的に金利と逆方向に動く。インフレへの対応策として、FRBが積極的な利上げに動いたことが、債券価格の下落につながった。しかし、そのFRBは2023年12月の政策金利の決定会合

(FOMC)で3回連続の政策金利据え置きを決定し、2024年は利下げ方向に転換する可能性を示唆している。これまでとは逆の動きが期待されるということだ。過去20年間で見ても高い水準にある今の金利をピークと考えるならば、債券にとって魅力的な投資環境と言える。一方で、債券のリスクは金利だけではない。お金の借り手に当たる発行体の返済能力(信用状況)によっても価格は変動する。今後、もし利下げに転じるならば、景況感は悪化していると想定される。発行する債券の信用調査能力と、景況感の変化に合わせた運用戦略が求められる局面となる可能性も高そうだ。このように、金利は魅力的な水準にあるものの、少し不透明な環境下での債券投資。プロの目利きを活用するのも一つではないだろうか。

M

■ 図表1 米国債券の指数に連動するETFの価格推移 (月次、2004年～2023年)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

■ 図表2 米政策金利と10年債利回りの推移 (月次、2004年～2023年)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

## ブランディワイン 米国債券戦略ファンド

(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし) 追加型投信/海外/債券

米国国債、政府関連債、住宅ローン担保証券、投資適格社債を中心に、米ドル建ての信用力の高い債券に投資します。

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。